

エ-12
P+ 654

電子複写不可



昭和八六一八二

ダゲパン憲兵分隊来翰遊務書類綴 2/2



防衛研修所図書館

354 京 田

係	任主	長班	長隊分

處 刑 通 報 第 二 七 号

渡 集 團 法 務 部

一 被 告 人 軍 屬 (雇 員) 當 三 十 一 年

一 罪 名 用 火 器 上 官 傷 害 致 死

一 處 罰 死 刑

一 犯 行 の 概 要

被 告 人 ハ 非 常 ニ 酒 カ 好 ヤ デ 吞 ミ タ ラ ナ ル ト 矢 モ 指 モ 耐 ラズ 時 折 不 正 外
 出 来 敢 テ シ テ 其 欲 望 フ 満 ス 有 様 デ ア ヅ タ 然 モ 酒 癖 カ 良 ク ナ ク 初
 メ ハ 酒 フ 吞 ム ガ 醉 フ ト 酒 ガ 酒 フ 吞 ム ハ マ ツ ニ ヤ ツ テ 次 カ ラ 次 ヘ ト 梯 子
 酒 フ マ リ 其 ノ 上 兇 暴 ニ ナ ル 即 酒 乱 ノ 傾 ガ ア ヅ タ 自 分 デ モ 此 莫 ハ 良
 ク 自 覺 シ テ 中 テ 勉 メ テ 自 己 フ 制 ス ル 如 ク 努 カ シ テ 昨 ノ デ 今 迄 大
 キ ナ 事 故 フ 惹 起 セ シ メ ル 迄 ニ 至 ヲ タ コ ト ハ ナ カ ヅ タ
 昭 和 十 八 年 五 月 二 十 日 平 常 通 リ 執 務 フ 終 リ 宿 舎 ニ 歸 ラ ウ ト シ タ ガ
 未 だ 五 月 八 日 署 サ ノ 絶 頂 デ ア ル ト コ ロ カ ラ 冷 イ 麦 酒 フ 一 杯 ヒ ヅ カ ケ
 タ ク ナ ヅ タ 其 處 デ 其 ノ 儘 市 ノ 繁 華 街 さん ち くる 一 方 面 ニ 出 掛 ケ

兵站指定食堂ニ三軒ヲ表相ヲ各ノダガ何シヨ月本ノコトトテ最中
 儘カニ金四円シテ無カソトト曰ク莫呼ニ遊レルト五月蠅ノテ一應切
 ケニテ所宿舎ニ歸リ懸呼ヲ受ケク表相少クテ満足出来ル被
 告人ノ拘捕ヲハナイカラ懸呼後例ニヨリテ不正外出ヲ企テ同僚カラ
 金ヲ同僚ニ入レ進ノ同僚ニ名ヲ請フニテ所宿舎ヲ脱出シタ
 共私服ヲ衣ニテツテカラ夕エカアツテ被
 告人ダケハ友人カラ借リ
 タルニトテ携ヘテキタヤサテ共カラ
 附近ノ飲屋敷軒ヲ表
 相ニ三軒死スハウノオス
 一杯位死
 散ミ歩イテ三軒所
 頭M.H.
 心ニ
 行ノ醉花園慰安所ニ素見ニ爲
 ツタ同行三人ノ中一人ハ遊
 ブト云ツタガ被
 告人トイマ
 一人ハ歸
 ルト云ツ
 タ共處ヲ出
 タ被
 告人ハ附
 近ニ居
 タ三輪車ニ乗
 リ他ノ二人ハ被
 告人
 アツ
 タガ被
 告人ハスツ
 スグハ
 一ノ方ニ向
 ン後
 カヲ乗
 タ二人ハ被
 告人
 ノ三輪
 車ヲ見
 失テ其
 ノ儘宿
 舎ニ歸
 ツタ宿
 舎少シ
 午前
 テ醉
 花園
 園ヲ遊
 ブト云
 ツタ男
 八人
 ノ一人
 ハ醉
 花園
 ニ志
 願ヲシ
 タト
 遊
 ツイ
 テ自
 介

一人引返シ同慰安所ニ登樓シ翌朝ニ所宿舎ニテキレノ方友人二人ト
 別レタ被
 告人ハ海軍下士官慰安所海月及兵站指定浪花莊ニ立寄
 リ孰レモ拒
 ラレテ更ニ
 ばさい
 方面ニ
 行キ比
 人終
 宿ノ飲
 堂ニ立
 寄リ表
 相
 三本ニ料理
 一品ヲ注文
 シ乗
 ツテ来
 タ三輪
 車ハ車夫ヲ
 呼入レテ一
 緒ニ飲
 ンダ
 少シ飲
 ムト被
 告人ハ車
 ニ乗
 レテ居
 睡ヲ初
 メタ
 車夫ハ居
 合セ
 ン
 知人ニ被
 告人ノ住
 居ヲ聞
 イテ賞
 ツテ送
 届ケル
 フトニシ
 タ其ノ時
 被
 告人
 ハ何故
 カ自分ノ家
 ハま
 びに五
 ミハト紙
 ニ書
 イテ渡
 シタ恐
 ラク軍ノ宿
 舎ニ
 居
 ルトハ氣
 ガ引
 ケテ苦
 憎カ
 ヲテアラ
 ワ三輪
 車ニ乗
 ツテ冷
 イ風ニ吹
 カ
 レルト何
 トモ言
 へヌ好
 イ氣持
 デウツ
 ラクシ
 テキ
 タ車夫ハ
 三十分
 余モ
 止
 附近ヲ行
 ヲツ
 戻リ
 ツン
 テ五
 ミハヲ尋
 ネタガ出
 鱈目ヲ
 食
 ヲツ
 タノ
 タカラ見
 ヲカ
 ル筈
 ガナイ隣
 組夜警
 ヤ交
 番巡
 査ニ聞
 イタリ
 シテ捜
 索シ
 テキ
 タ好
 イ氣持
 ニナ
 ヲツ
 テキ
 タ被
 告人モ
 少
 シ車
 夫ガ氣
 毒ニモ
 ナツ
 テ来
 タサ
 リトテ
 今更
 五
 ミハハ
 嘘
 ダトモ
 言
 平ク思
 フテキ
 タ其
 處へ其
 ノ夜
 浪花
 莊ヲ及
 人ト會
 食
 シ單身
 宿舎ニ
 歸
 ロウ
 シテ道
 ニ迷
 ヒ大
 東亞
 通
 送
 出
 レバ
 アトハ
 介
 ルト云

フノテ大東亞通へ出ル道ヲ探シテ通菟ノ夕某少尉ト路上テ遇然出會シ
 夕車夫ハ被告人が醉ツチテ行先ハ分ラズ言葉ハ通ゼズ困ツチテオクノデ
 日本軍ノ將校ト見テ早速自分ノ客ハ何處へ歸ル人デアルカ尋ネテ呉レ
 ト英語ヲ頼メタ同少尉ハ被告人ノ傍へ寄ルト被告人ノ方カラまじび五三
 ハハ何處カト聞イタソソナトコハ知ル客ガナイノテ少尉ハ「知ラヌ」ト答へ
 タトコガ被告人ニハ前述ノ通り酒乱ノ癖ガアツテモツカサヘアレバ何時
 爆發スルカモ知レナイ右ノ應答態度ガ被告人ノ疇ニ觸ツタト見へ忽ケ
 ムト胸ニ乘テ向少尉ニ喰ツテカリニ言ム言フ論シタ被告人ハ相手ガ
 將校デアルト言フコトハ相當能辨シテ居リ少尉ガ略取ヲアリア又薄暗
 イ路トノコトデアツタ爲ハハツリシヲ認識ハナカツタヤウデアル併シ帶刀シ長
 靴ヲ穿イテキル莫カラ軍屬トシテモ判任官以上デ自己ヨリ上級者デアル
 フト十分知ツチテ被告人大聲デ少尉ヲ罵ル中相手ガ左手ニ軍刀ヲ
 拵ツチキテヒョットシタラ抜刀ニサレハセマカト不安ヲ感スルモ機先ヲ削スルモ
 加カスト突然拳ヲ固ク少尉ノ左眼部ニ強烈ニ撃テ與ハ味ツトタチ

少尉カラ軍刀ヲ奪取シ引抜クモ否マ減多斬ニ切付ケタ頭部額面
 脚ト全身十個所ニ切創ヲ負ハシ中テモ背ノ傷ガ最モ深ク肋骨ヲ切ツテ
 臟ニ達シ其地頸部腕モナカク、重傷デアツタ兇行後直ニ其ノ場ヲ逃レテ
 ノデアルガ稍逆上カラ澗ノルト自己ノ犯行カ氣掛リニテ暫クノ後現為ニ引
 返シ其ノ頃附近交番カラノ通報ヲ馳付ケテ救急自動車ニ通行人ヲ誘ツテ
 警官ニ手傳ヒ重傷ノ少尉ヲ兼セ比島綜合病院迄附添ツテ行ツタ少尉
 ハ同病院ヲ應急手當ヲ受ケテ上軍病院ニ收容セラレタノデアルガ以上ノ重
 傷ヲ体カガ弱ツタ爲以前カラ拵ツチテオクテ悪性マラリ也(熱帯熱)ヲ請察
 スル結果トナリ加ヘテ背ノ傷ガ化膿シテ膿胸トナツタ爲受傷後約一ヶ月目
 ニまわりや兼膿胸ヲ遂ニ死セシタ

一 參考事項

(1) 他斃其地

歎ニ等青色桐葉章、恩給年額百八十六円

滿洲事変及支那事変従軍記章

(2) 學歷経歴

中等學校卒業(蚕絲學校)

農(鎌)自動車運轉手、入営、滿洲事變支那事變
軍屬(馬不伴、數參加)歸國、軍屬(夜比)

ハ家庭ノ狀況 家ハ養蚕ヲヤツテ年々不景氣ニナリテ一家ヲ養フケテ
都會ニ出デ円タク業ヲ始メテ事變後ソレモ思ハシクナイデ整理シテ兄
達ハ軍需工業ノ方ニ勤メルヤツニテ家ニ西親兄二人姉一人妹三人
カレ暮向ハ普通ノヤツテアル

性質行狀 温順寡黙稍陰鬱ノ傾ガアリテ服務ハ良好テ事務的メヲ
有シ上司ノ命ニ服シ熱心デアツタカ酒ノ爲ニ退廳ハ行勤ハ放縱デアツタ
酒ハ幼時カラ呑ムト云フハ本人ノ母ガ酒吞デ子守ガ被告人ノ背
ニ負ツテ自分ノ家ヘ行ク都度幼イ被告人ニ猪口デ飲マシメト云フ想ルハ
ヤ語デアル

約百八十円ノ俸給其ノ他ヲ全部現地デ受領シ殆之ヲ酒ニ費シテサテ
ヤツテアル、當夜不正外出後飲ミ歩イタ屋ハ殆全部額カ利メヨク
テアツタトカラシテ其ノ呑ム振ガ想像ナレル

ハ情化所見

酒ハ飲ミヤツテヨリ百薬ノ長デアリテ氣ヲ鼓舞シ明日ヘハ拘束トナル
然レ飲ミヤツテヨリ百毒ノ優トナリ身ヲ誤ル本トナル「敵陣訓」ニ曰フ
「敵陣苟も酒色ト心舞ハ水 又は感情ト融ラレテ本心を失ヒ軍陣の
戒條を損じ奉公の身を過おカ如キことあるべからず、深ク戒慎し、
斷じて武人の清節を汚さざらんことを期すべし」又「死して罪禍の汚
名を残すこと勿レト

酒ハ慎マネバナラヌ事故ノ起ラヌ中ニ注意スレトガ必要デアル友人同
僚モ酒癖ノアル者ニハ注意シテ事故ヲ未然ニ防止スルノガ數友道デアル
被告人ハ酒ヲ嗜ミ知リツツモ之ニ溺レテキタ、知リ方ガ淺カツテ徹底シテ
キナカツタデアル、最後ニ身ヲ以テ漸ク冷徹自知スレトガビキタ
死ト云フ最高ノ救業料ヲ支拂ツテ救ヘラレタ、被告人ノ情ヲ正ニ記
シテ見ヨツテ長クヤルガ之ハ被告人ノ遺言デアル、大方酒客ニ訴
ヘントスル血ヲ吐ク如キ被告人ノ最後ノ意志デアル

「憲兵隊に居る時輸血の事を申し出たが既目せつた。効果は無かつたらう。かためて出来れば良かった。被害者が死に別れは夢にも知らず一日も早く全快の日を御祈り致して居た。何と申す無い事を致した。五枚の致死は本望は小比此水も致し方なき遺族の方々の悲しみは何れもかりか、自分の刑が此れで良かったと思つて居る外に御おびの致し標が無いため、福を御祈り致す自分も敵陣で死ぬたのが致念だ。諸々の飲酒家も酒は犯罪の元なり自分は今に成つて死を前として悔つた。今迄は酒を飲まぬ者の云ふ事位に思つて飲んで居た。能くも自分の標は罪を犯さぬ内に禁酒せらるれば、罪を事なき考へて飲酒して居る馬鹿もたいてらう。飲むのは悪い事だ、然し悪、飲酒家に云ふ、飲料アルコールの販賣を中止すれば良いが此れは犯罪者の云ふ事だ、良い飲酒家は困ららう」後略

内務省 確實 處 正 憲兵隊に居る時輸血の事を申し出たが既目せつた。効果は無かつたらう。かためて出来れば良かった。被害者が死に別れは夢にも知らず一日も早く全快の日を御祈り致して居た。何と申す無い事を致した。五枚の致死は本望は小比此水も致し方なき遺族の方々の悲しみは何れもかりか、自分の刑が此れで良かったと思つて居る外に御おびの致し標が無いため、福を御祈り致す自分も敵陣で死ぬたのが致念だ。諸々の飲酒家も酒は犯罪の元なり自分は今に成つて死を前として悔つた。今迄は酒を飲まぬ者の云ふ事位に思つて飲んで居た。能くも自分の標は罪を犯さぬ内に禁酒せらるれば、罪を事なき考へて飲酒して居る馬鹿もたいてらう。飲むのは悪い事だ、然し悪、飲酒家に云ふ、飲料アルコールの販賣を中止すれば良いが此れは犯罪者の云ふ事だ、良い飲酒家は困ららう」後略

之何れを同様テアル外は所限ヲ制限サレルハ則レル迄ハ高層層ニ相違
 イルニ親律ノ中ニ親律ヲ集メシテ、起馬スル如ク指導スルフトガ肝要
 テル 彼告人等ノ宿舎デハ不正外ハ、日常茶飯事テアツタマツテアル
 慰安所ニ泊ツテニ所面歸ツタ男ガアツテモ又被告人ガ三所面歸ツテモ
 不寝番ニ宿別何トモ云ツテナイ否如何ナルツモリカ遊ンデ遅ク歸ッ
 タ男ニ不寝番ガ「御苦勞サント云フ挨拶ヲシテアル。勿論不正外出ノ
 アツタ都度翌朝不寝番カラ異状報告ナドハナカツト思フ此ノ跡モ
 「異状」ト云フ事ニ違ツテアル。内務ヲ最格ニ兼テ良クスルフトハ眞ニ
 知下ラズルニ監督者、當然爲サネバナラス。責務デアル
 本件ノ爲ニ人ノ相爲、青年マツタ被害者、博士ノ學位ヲ有スル
 優秀ナル醫學者デアリ被告人ハ歴數ノ勇士ナル一人ノ日本人モ
 飲シイ時局下ニ洵ニ惜ミテモ余アルフトデハナイカ
 此處テ陸軍刑法ノ解説ヲ一ツスル
 陸刑第六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令

権ヲ有スル者ヲ謂フ。命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級、ト云ル者ハ之ヲ上官ニ準ス。但シ兵卒以下ニ勤務上等兵ヲ除クノ外總テ同様トス。陸軍第九條左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス。一陸軍所屬ノ學生、生徒、ニ陸軍所屬ニ陸軍勤務ニ服スル海軍軍人

以上が上官ニ関スル關係法條ノ全文デアル。即命令權アル者及階級等ノ上ノ者ガ上官デアリ此ノ事ハ軍屬ニ於テモ同様デアリコトガ明カニ規定サレテヤルノデアル。本件ニ付テ言フナラバ被告人ガ少尉ヲ將校ト思ツテヤナカツタコトハ問題デナイ。自己ヨリ上級者デアル少クモ判任以上ノ者デアルフトヲ認メテヤテ現實ニ相手ガ將校デアツタノゾカラ上官致死罪トシテハ必要ニシテ且十分ナル要件ヲ具備シテヤルノデアリ判任官以下ノ軍人軍屬ニシテ若シ高等文官ハ上官ニ非ズト思料スルナラバ之ハ大變ノ間違デアリ。之ハ階級ニヨリ成立スル軍隊ノ建前上前記法ノ明文ヲ特ツ違モナイコトデ若シ上官ニアラズト誤

解シテヤチモ大レハ法ヲ不知シテヤツテ何等酌量セラレナイデアリ
尚参考造

當夜被害者タル少尉モ若干醜斷シテキタマウデアリ。シカシ同様其ノ他ノ言ヲ綜合スルト平素カラ濃厚篤實ナ人デ所謂「大キナ聲」モ出サヌ人柄デアツタマウデアリ。又酒ヲ嗜ム方デ大醉ニ至ルコトハナカツタマウデ勿論癡癡等ハ無クニコク笑ツテ人ノ歌フノヲ聴イテキルト云ツタ人ノマウデアツタ。少尉ガ後々切創ハ前記如ク全身十箇所デアツタガ其ノ外最初ニ段々左眼部ノ打撃ハ相當猛烈ナモ、テ軍病院ニ收容サレタ當時ハ紫色ニ膨レ上リ目カ開ケラレナイ位デアツタト云フ。又被告人ハ右手指ニ擦傷アル外微傷デモ見ツテキナカツタ。右手指ニ擦傷ト云フハ少尉ノ左眼部ヲ打ツタ時少尉ノ眼鏡ノ上カラ打ツタノデ眼鏡ニ觸レテ出来タモノラレト之ヲ要スルニ少尉ハ全然キヲ出サヌ中ニ被告人ガ強打ヲ浴セ金ノ一方的ニ壓倒シタモノト思ハレル。少尉ガ同様ニ認ツタ所ヨレハ何カ所ヲ聞

028

カレテ知らヌト答ヘルト突然被害人ガヲ顔面ヲマラレタ彼様ノ暴
漢ノ相手ニシテハ益ナイコト無抵抗主義ヲ相手ニテラフガ第一ト述ゲ
ヨウトシテトコヲ後方カラ軍力ヲ奪ハレ斬ラレタ。アノ際ノ自分ノ行動
ハ將校トシテ敵クルトコノガ無カシカハ配テアルト云フノテアル。實ニ氣
毒ナコトデアル。斯ル常識ヲ判断出来ヌ無法者ノ居ルコトヲ吾人ハ
勘定シ入レテ置ク必要ガアラワ。又被害人ハ私服デアリシカラ少尉
ハ被害人が何ノ属デアルトハ全く知ラズ不良知人他ニ思ツテホクモ
ノト思フ。

タルヲ以 憲報第ニ六號

降、兩ニ依ル州ハ被害状況ニ

隣スル件 報告通牒第ニ報

昭和十八年七月二十九日 タルヲ以 憲兵分隊長

夕クバン 憲兵分隊長殿

首題ノ件 左記報告通牒又

左記

二般狀況

七月二十日以来ノ豪雨ニ依ル被害状況ハ既報

係	任主	長班	長除分

360